

ブドウ「シャインマスカット」短梢栽培において果粒肥大を促進する副梢管理法

誌名	東北農業研究
ISSN	03886727
著者名	明石, 秀也 増田, 華歩 米野, 智弥 佐藤, 光明 仲條, 誉志幸
発行元	[東北農業試験研究協議会]
巻/号	69号
掲載ページ	p. 77-78
発行年月	2016年12月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



ブドウ「シャインマスカット」 短梢栽培において果粒肥大を促進する副梢管理法

明石秀也・増田華歩・米野智弥*・佐藤光明**・仲條誉志幸***

(山形県農業総合研究センター園芸試験場・*山形県農林水産部・**山形県最上総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室・***山形県西村山総合支庁産業経済部農業技術普及課)

Method of pinching lateral shoot for promoting the thickening of berry of grape
in short pruning at grape cultivar 'Shine Muscat'

Shuya AKASHI, Kaho MASUDA, Tomoya YONENO*, Mitsuaki SATO** and Yoshiyuki NAKAJO***

(Horticultural Experiment Station of Yamagata Integrated Agricultural Research Center・*Agriculture Forestry and Fisheries Department of Yamagata Prefectural Government Office・**Yamagata Mogami Agricultural Technique Extension Division・***Yamagata Nishimurayama Agricultural Technique Extension Division)

1 はじめに

ブドウ「シャインマスカット」短梢剪定栽培では、これまで展葉 10~11 枚時の新梢摘心によって着粒向上、満開 21 日後の新梢摘心によって果粒肥大向上効果が認められている。山形県は遅場産地であるため他県より高品質であり高級品需要に対応した果房生産が求められている。このことから、より果粒肥大を促進させるための生育中期以降の新梢先端および副梢の最適な管理方法について検討した。

2 試験方法

- (1) 供試樹: 「シャインマスカット」/テレキ 5BB 12 年生 (2015 年時) 短梢剪定 WH 型仕立て 2 樹
(2) 試験区: 副梢管理は表 1 のとおりに実施した。

表 1 試験区の概要【2014・2015 年】

年度	試験区	摘心方法	摘心頻度
2014 年	一葉区	副梢 1 葉 摘心	~7 月: 1 週間隔、
	全摘区	副梢を基部から摘除	8 月~: 2 週間隔
2015 年	一葉区	副梢 1 葉 摘心	~7 月: 10 日間隔 8 月~: 2~4 週間隔
	省力区	副梢 1 葉 切除	7 月中旬、8 月中旬
	全摘区	副梢を基部から摘除	~7 月: 10 日間隔 8 月~: 2~4 週間隔

展葉 10~11 枚時に新梢先端を摘心後それ以降は上記の間隔で副梢管理を実施した。

- (3) 収穫調査日: 2014 年 10 月 14 日
2015 年 10 月 19 日

(4) 栽培方法:

栽培様式: 簡易雨除けトンネル栽培

植物成長調整剤: 開花直前、ストレプトマイシン (商品名: ストマイ液剤 20) 1000 倍、メピコートクロリド (商品名: フラスター液剤) 2000 倍を棚面全面散布
花穂長は開花始期に 3.0 cm に整形後、満開期にジベレリン (商品名: ジベレリン協和粉末) 25 ppm + ホルク

ロールフェニユロン (商品名: フルメット液剤) 2 ppm、満開 10~15 日後ジベレリン 25 ppm 花 (果) 房浸漬
着房管理: 2014 年は主枝 1 m あたり 7.0 房、2015 年は 6.0~6.5 房に制限

果房保護: 摘粒後にカサ設置、ベレゾーン期に白色袋被袋

土壌: 中粗粒褐色低地土、草生栽培

3 試験結果及び考察

(1) 【2014 年】

- 一葉区では 1 新梢当たりの副梢葉が 14 枚程度であり、LAI は一葉区で 2.0、全摘区では 1.5 であった (表 2)。
- 一粒重は一葉区で 18.3 g、全摘区で 17.9 g と、両区とも平均 18 g 程度であったが、一葉区では全摘区に比較し、18 g 以上の果粒割合が多かった (表 3、図 1)。
- 全摘区は LAI が低く、日当たりが良すぎたために果皮色の黄化が早く、かすり症がやや多くなった (表 2)。

(2) 【2015 年】

- 摘心頻度は生育が旺盛な 7 月までは約 10 日間に 1 回、8 月以降は 1 カ月に 1~2 回程度であり、6 月下旬以降の摘心回数は一葉区で 8 回、省力区で 2 回、全摘区で 8 回であった (表 2)。
- LAI は一葉区で 2.6、省力区で 2.9、全摘区で 2.1 であり、主枝 1 m 当たりの枝数を多くしたため、全摘区においても 2014 年ほど明るくはなかった (表 2)。
- 一粒重は一葉区では 18.6 g と 2014 年同様、平均 18 g 程度で、18 g 以上の果粒がほとんどであり、果房のしまりが良く密着した果房ができた (表 3、図 2)。
- 省力区および全摘区では、一粒重はそれぞれ 16.6 g、17.0 g と一葉区より小さく、18 g 以上の果粒割合は小さかった (表 3、図 1)。

5)全摘区では 2014 年同様にかすり症の発生がやや多かった (表 3)。

4 まとめ

2カ年の結果より、ブドウ「シャインマスカット」短梢栽培では、副梢を1枚残した摘除を繰り返して

行った場合で果粒肥大効果が高かった。さらに果粒肥大の増加とともに果房のしまり向上効果があった。以上のことから、6月下旬以降、新梢先端と各節に発生した副梢について、新たな展開葉を1枚残した摘除を繰り返すことで、果粒肥大の増加、果房のしまり向上効果が得られることが明らかになった。

表 2 収穫時新梢生育

年度	試験区	新梢数 /主枝1m (本)	新梢径 (mm)	葉枚数/新梢		LAI	摘心処 理回数
				本葉	副梢葉		
2014年	一葉	10.0	14.5	11.8	14.2	2.1	-
	全摘	10.1	14.2	11.5	0.0	1.5	-
2015年	一葉	15.3	11.5	11.1	10.9	2.6	8
	省力 全摘	16.2 15.4	10.6 10.5	11.8 11.6	9.5 0.1	2.9 2.1	2 8

表 3 収穫時果房品質

年度	試験区	果房重	果粒重	果皮色 ^z	かすり 症 ^y	着粒数	糖度	酸度	房 しまり ^x
		(g)	(g)	(c. c.)		(粒/房)	(Brix)	(g/100ml)	
2014年	一葉	889.4	18.3	2.5	0.3	47.7	18.6	0.21	-
	全摘	866.4	17.9	2.8	0.8	47.6	19.3	0.22	-
2015年	一葉	825.4	18.6	2.6	0.6	43.8	17.8	0.22	0.7
	省力 全摘	811.0 781.2	16.6 17.0	2.7 2.6	0.7 1.0	48.3 45.4	18.4 19.3	0.24 0.24	1.1 1.7

^z果皮色：山形県作成カラーチャート

^yかすり症 0:なし 1:軽微 2:少(等級に影響なし) 3:中(等級に影響あり) 4:商品性なし

^x房しまり(軸元の果粒密着程度) 0:支梗が見えない(完全密着) 1:1粒程度の空き 2:支梗が半分見える 3:支梗全て見える

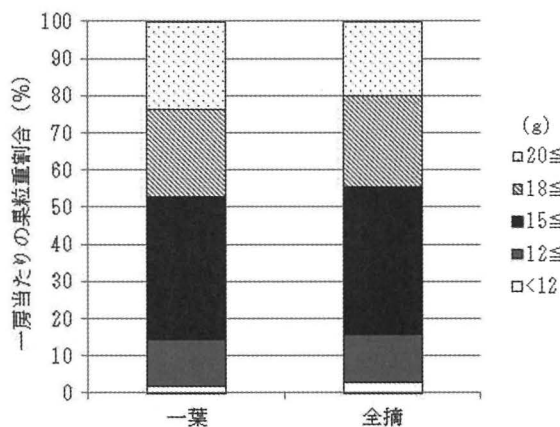


図 1 一房当たりの果粒重割合 (2014年)

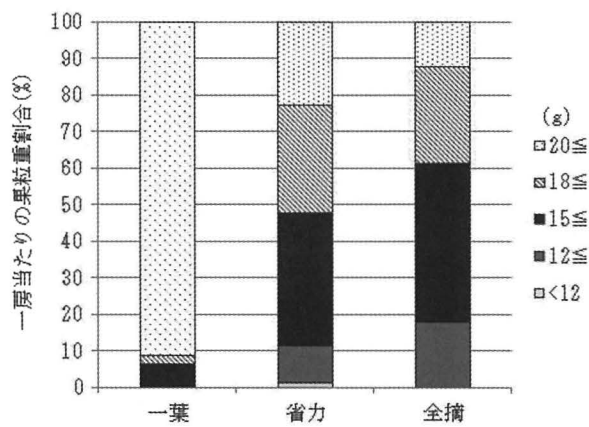


図 2 一房当たりの果粒重割合 (2015年)